

第19回さいたま市外国人による 日本語スピーチ大会 **特別号**

今年、予定していたスピーチ大会は新型コロナウイルスの影響で中止となり、皆さまにお会いできる機会を失いました。出場を楽しみにしていた方々を思い、出場予定だった皆様の発表内容をIEC News特別号として発行させていただきました。

「花心(はなごころ)」という言葉があります。どんな厳しい雨風に打たれようとも、季節がくれば、当然のように花は咲こうとするのです。私たちがそうありたいと願います。

来年、さらにパワーアップした皆さまとお会いできる日を、心よりお待ちいたしております。

大会に向けて準備をしてくださった皆さまに御礼申し上げます、ご挨拶とさせていただきます。

スピーチ大会実行委員長 藤田 安子

～さいたまに来て、見て、感じて～

無観客
開催

LIVE

19th さいたま市外国人による 日本語スピーチ大会

テーマ：「Stay Homeで見つけた幸せ」

2021.2.6(Sat.) 13:00～

インターネットLIVE配信

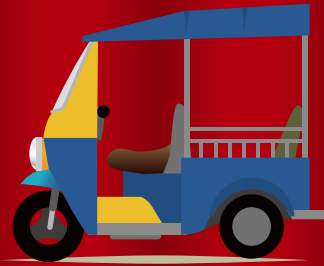
YouTube「さいたま観光国際協会」チャンネル
Saitama TIB



「私の見つけた小さな幸せ」

ゲン ティ トウイ リンさん (ベトナム)

私たちの人生は、幸せを見つけるための長い旅です。では幸せってなんでしょか。ベトナムの詩人がこう言っています。「幸せは空のようなものである。」いつもそこにあるけれど、それは普通のことです。普通のことですが、幸福はそういうものです。台風の時、青い空を思い出します。雷が落ちるとき、青い空はいつもそこにあったことを思い出します。世界の中には、食事ができることを大きな幸せに感じる人もいますし、旅に出て家に帰った時に幸せを感じる人もいます。



幸福は身の回りにあふれていますが、実はいつもそこにある空のように気が付きにくいものです。私の気が付いた幸せについてお話ししたいと思います。

私はベトナムの家を離れて太陽が昇る国に来て、毎日とても幸せに暮らしながら、人の愛のぬくもりを感じています。コロナで国民が一番大変なときに、それは日本の首相を通じて表現されました。そのサポートは大小さまざまでしたが、特別なのはコロナで弱った私たちへの精神的なサポートではないでしょうか。国籍を問わず日本で学び、働く限り私たちはいつも公平に扱われて、みんな同じ国民として生活することができます。それは本当に、幸せなことです。日本は先進国ですが、人の温かさをなくしていません。この国にたった一人で来た恥ずかしがりやの女の子だった私は、この国の愛に包まれて、やりたいことが少しずつできるように成長してきました。

マスクがない時、首相からの真っ白いマスクを受け取り、もっと頑張ろうと思いました。そしてあの10万円は本当に困ったときのためのお守りのようなものです。それだけでなく、外出できない私たちのために、母国ベトナムからの支援もありました。米、ラーメンなどのシンプルな贈り物でしたが、故郷をはなれたベトナムの子供たちへの愛を込めた贈り物でした。

コロナで外出できなかったあの心の寒かった時期に、春のように暖かくなりました。人と直接交流ができなかった時期だからこそ、人の温かさが心にしみました。不自由な環境だからこそ、分かる幸せってありますよね。

幸福とは言葉で表現するだけでなく、行動で表現されるものです。私たちの周りに幸福は常にあって、人によって幸せの感じ方は違います。みなさんにとって幸せって何ですか？私の見つけた幸せはステイホームの中でもらった優しさです。社会がどんなに混乱しても、どんな環境になっても、その中で小さな幸せを見つけ出せる生き方をしたいと思います。ご静聴、ありがとうございました。

Viet Nam

「かけがえのない時間」

アクタ ムサモト モニアさん (バングラデシュ)

私はアクタ ムサモト モニアと申します。主婦です。2015年2月7日バングラデシュから日本にきました。さいたま市見沼に住んでいます。私の家族は5人です。私と夫と女の子が3人います。1番上の子どもは9才で小学校4年生です。2番目の子どもは6才、3番目子どもは2才で2人とも保育園にいます。

ここで日本とバングラデシュの学校の違いを紹介します。バングラデシュはテストに合格しないと進級できません。でも日本では進級するときテストはありません。テストがないのでちょっと心配です。2つめは掃除当番や参観日があることです。私の国にはないのでとても良いことだと思います。3つめは給食制度です。私の国には給食はありません。私の国はハラルと言う習慣があります。だから豚肉を食べることができないので、献立表を見て豚肉がでる日はお弁当を作ります。

子どもは日本の学校や保育園で楽しく生活しています。それなのにコロナのため学校は休校になりました。そこで私は家で子どもと一緒に料理をしました。子どもは日本のカレーが大好きです。バングラデシュのカレーは辛くて子どもはあまり好きではありません。子供は野菜の皮をむいたり洗ったり、一緒に切ったりして手伝いました。美味しくできました。またベランダで野菜をつくりました。トマトとナスの苗を植えました。トマトは2個、ナスは1個とれました。トマトは子どもが自分でとって食べました。子どもはゴーヤのタネをまきました。毎日、世話をしたけれど、芽も出て花も咲いたのに実がなりません。子どもは「ママ、花も咲いたのに何でまだ実ができないの?」と悲しそうに言いました。

「ぐりとぐら」や「あかずきんちゃん」など絵本もたくさん一緒に読みました。公園に行ってたくさん遊ぶことができました。

コロナで学校が休みになって、子どもと過ごす時間が増えて、初めはちょっと心配だったけど、後でとても良かったと思いました。いろんな話ことができました。たとえば学校の生活のことが良く解りました。友だちと仲良くしていること、勉強のこと。私は子どもの教科書を見て解らなかつたけれど、子どもはスラスラ解っています。私は安心しました。

コロナで子どもと過ごす時間が出来てとても幸せでした。



Bangladesh

「幸せって自分次第」

エーミヤ サンダーさん (ミャンマー)



私が日本へ来たばかりの時、多くの国でコロナが流行っていて、私の国ミャンマーでも苦しい生活をしなければいけない人がたくさんいる状況でした。コロナのせいで日本へ来られない友達もいました。なんとか来られた私は、留学生として色々な国の人々と友達になって楽しい学校生活を送りたいという期待を持っていました。しかし、日本へ来たのに学校に通わずに授業がオンラインで行われることになりました。とても驚き、この状況がいつまで続くのか心配でした。自分なりに出来る事はないかと考えました。毎日オンライン授業で勉強していると、だんだん退屈になってしまいました。日本の生活に慣れていない私にとって、人に会えないのはとても寂しくて、遊びにでかけられないのも残念でした。しかし、そんなとき一つだけ私が行ける場所を見つけました。住んでいる寮の隣の公園です。大学生の時に、なかなか出来なかった運動をするい

いチャンスだと思いました。運動は健康にも良い事だと思います。話し相手が見つかるかもしれないという思いもありました。公園にいた人たちはおじいさん・おばあさんばかりでしたが、その中の一人が私の方を見てニコニコ笑ってくれました。毎日顔を合わせていたので、私も気になって挨拶をしました。

アイコさんというそのおばあさんは、私の初めての日本人の友達になりました。寂しかった私の気持ちも少しずつ変わって、生活が楽しくなりました。アイコさんとおしゃべりするのは面白いし、私のことを「外国から来て頑張っているんですね」と応援してくれました。誰かに応援されていると思うと、勉強もやる気が出ました。制限が多くて大変な生活だけど、その中でも小さなことが幸せだと感じる事ができると思いました。

アイコさんのおかげで、私のStay homeの生活は大きく変わりました。とてもいい経験だったと思います。



Myanmar

「ボランティアの仕事を通じて、幸せを見つけられた」

グエン ティ マイ リーさん (ベトナム)



皆様こんにちは。ベトナムから来たグエン ティ マイ リーと申します。

今、留学生として、武蔵浦和日本語学院で勉強しています。今日は「Stay homeで見つけた幸せ」というテーマで発表させていただきます。

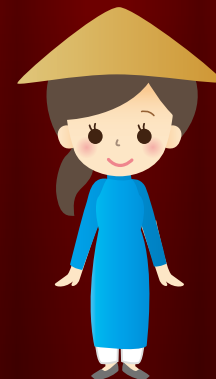
私は朝日新聞奨学金のおかげで、去年の3月に日本に来ました。その時は新型コロナウィルスが拡大している時期でした。それに4月に日本政府が「緊急事態宣言」を出して、会社や学校の運営が一時停止になりました。みんながほとんど家でインターネットを使って働いたり、勉強したり、なるべく出かけないようにしている状態でした。

私は入学式の後も、まだ学校に行けませんでした。ズームミーティングというアプリで授業に参加しました。時間的に余裕があったので、私はベトナムでの「子供たちと貧困」というプロジェクトに参加しました。プロジェクトの内容は、主に田舎の子供達に数学と英語を教えることです。このプロジェクトは、いろいろな国に留学しているベトナム人学生たちによって立ち上げられました。プロジェクトの目標は、自国のネグストジェネレーションを助けることで自国の未来と子供達の未来に橋をかけることです。

私はプロジェクトボランティアの一人として、今も12人のクラスを担当しています。最初は子供達が大人しくて、私が質問しても答えを言ってくれませんでした。ズームでの初めての授業なので、少し恥ずかしかったのかもしれません。でも、子供たちは真面目に勉強して宿題もきちんとやっていて、私と子供達はだんだん親しくなってきました。最近では、答えづらい質問もされます。例えば、「なぜ世界が一つの言語を話さないですか?」「昼間は月がどこに行ってしまうの?」子供達に「なぜ…?なぜ…?」と色々な質問をされて、ちょっと悩んだりもしました。貧しい家に生まれた私は、私と同じような環境の子供たちにとっても同情しています。子供たちは、畑で親の仕事を助けるので手肌が荒れて、顔がカサカサしても、いつも笑顔でいました。そんな日々を、私も過ごしたのでよく分かります。子供たちを助けられることは幸せだと思います。ボランティアの仕事を通じて、自分自身の幸せを見つけられました。小さな楽しみが、社会貢献につながり、それが私を元気づけます。

日本のコンビニは、どこにでも小さいボックスが置かれてあり、「子供のため」と書いてあって、日本にもかわいいような子供達がいると知りました。さいたま市では、子供のための活動もあると聞きました。自分の日本語はまだ上手ではないと解っていますが、そんな活動に参加しようと思っていたので、いつか必ず参加したいと考えています。

コロナ禍は避けられません。経済、仕事、勉強など人々に影響を与えています。しかし、今の困難な状況でも、社会に役立つことをやり、好きなことをやることで、私は真の幸せを感じられるんだろうと思っています。



Viet Nam

「当たりまえの日々」

アハメド タハミドさん (バングラデシュ)

コロナが流行し、Stay homeになったのは、高校入学を目の前にひかえたときでした。高校入試に合格し、大きな期待と、日本での高校生活に不安な気持ちがあったことは覚えています。学校は休校になり、私の気持ちにもたくさんの変化がありました。そして私は今「Stay home」という機会を与えてもらったのだ、と感謝をしています。初めてロックダウンを経験し、大変な日々の中で見つけたことは感謝をする気持ちだったのです。

まず、家族への感謝です。学校に通うようになってからこれほど多くの時間を家族みんなで過ごしたことはありませんでした。弟や妹の世話をしたり、家事をして過ごしました。母が妊娠中で体がつかうので、私が手伝うことをとても喜んでくれました。私自身も、母が毎日私たちのためにたくさんのことをしてくれていたことを知り、「大変だったのだなあ」という気持ちがわかるようになりました。私が手伝うことを母が喜んでくれることもまた、私にとっては幸せなことでした。つながりを感じられる家族がそばにいて、みんなが健康でいられることに感謝しています。

次に、インターネットテクノロジーの発展に感謝をしています。ロックダウンで外にも出られない、友人にも会えない日々が続きましたが、インターネットテクノロジーのおかげで遠くの人を近くに感じることができました。世界の人と画面を通して顔を見ながら、まるですぐそこにいるかのように話すことができます。バングラデシュの親戚や友達が遠くにいても、インターネットのおかげで寂しくありません。買い物も簡単にできます。数十年前だと考えられなかったことだと周りの大人が教えてくれました。それを聞いて、すごいことなんだと知ることができました。

そして、Stay homeが自分について考える時間を与えてくれたことに感謝しています。私は、自分の将来について「何がしたいのか」、「どんなことに興味を持っているのか」、「どんな大人になりたいのか」を考えるきっかけとなりました。

毎日学校があって、家族や友達と楽しく触れ合うことができ、みんなが健康でいる。これまで当たり前のように過ごしていた日々がどれだけ幸せなことだったのか、このStay homeは私に気づかせてくれたのです。



Bangladesh

「大変な時間の幸せ」

ギャツパー カレンさん (メキシコ)

皆さん、こんにちは私はギャツパーカレンです。メキシコから来ました。

夫の仕事の関係で「夫と一緒に日本に行くことになった」と友達に話した時「えつ、日本?どこにあるの?」別の友達は「中国のどこかよ!」と言いました。日本は遠い国で、あまり情報もなく、よくわからないアジアの国でした。

日本語を勉強して、友達もでき、日常生活は困らないくらいに慣れてきました。来日したばかりのころは家族や友達が恋しくて「メキシコに帰りたい」となんとも思いました。夫は心配して、色々なところへ連れて行き、友達ができるよう考えてくれました。

生活が落ちついてくると、どんどん日本が好きになっていきました。

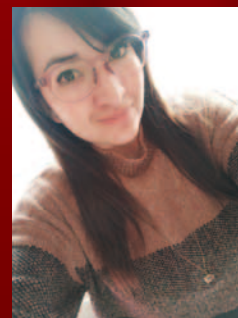
私の生活が変わったのは新型コロナの影響でした。世界中でたくさんコロナの感染が出ました。日本でも「マスクや手洗い、消毒などをするように」と毎日メディアから伝えられました。コロナは、今も増え続けています。でも不思議なことに、日本は世界中のどこよりも死ぬ人が少ないと思います。それは、国民がマスク・手洗い・消毒をよく守るからです。私は良い方法だと思います。

メキシコでは買い物に行って店に入る時、マスクをしていない人が多いんです。「マスクをしてください」とお願いすると「マスク?大丈夫、大丈夫、今日は忘れませんでした。今度来る時は持ってくるね〜」と言ってマスクをしません。日本では考えられないことですが、メキシコでは普通です。マスクが大切とは考えない。

私のステイホームは、外出自粛要請から始まりました。それはとても楽しい時間でした。コロナは心配だけどステイホームはいいことだと思いました。

最初、いろいろなことを始めて、何をやってもうれしかった。まず初めにミシンを買って、布も買い、マスクを作りました。Youtubeでいろいろな動画を見て、型紙を作り準備をしたのに、マスクは1枚しか作れませんでした。寂しかったですね。後で他のこともしたが、同じ結果でした。いろいろ考え、アイデアはたくさんありました。でも、一番大切なのは運動です。体が丈夫ならコロナにもなりにくい、健康のために良いことだから、たくさんすれば良いと思いました。夫婦で運動を一緒にすることを、夫は非常に喜んでいました。空いている部屋でジムを作りました。「お家ジム」です。インターネットでマットを買って、1キロと2キロのダンベルも買いました。その部屋は私たちのジムだから、少しずつ新しい物を買って増やします。週3回運動をすることがとてもうれしい。毎日インターネットで効果的なルーチンをさがしました。夫はテレワークで仕事することになり、1ヶ月くらいで、時間がなくなりました。その後は、一人で運動を続けていました。今度は、私のルーチンが週4回となり、だんだん楽しくなくなりました。「どうしたらいい?」と考え、公園でジョギングを始めました。いつも「どうしたらいい」はアイデアのもとです。今は、公園で走って、後はお家ジムで運動をして終わります。気持ちがいいですね。急に始まった「ステイホーム」、家での過ごし方が分からなかった時、夫と過ごし方を工夫し、いろいろアイデアを出しあった時間でした。多分そのステイホームの時間がなかったら、この幸せはまだ見つけられなかったでしょう。今まで、忙しいという理由で自分のためのことはあまり努力をしなかったけど、考え・実行することが出来ました。今でも家の中での時間は必要なことですが、今度は幸せなことに「運動」もできます。お家ジムでも、公園でも、他の国でも、一人で一生懸命やります。今から他の幸せなことを見つけることができるでしょう。

ご清聴ありがとうございました。



Mexico

「ステイホームの中のホームステイ」

許 雅婷さん (台湾)



2020年の初めに、コロナウイルスが世界に蔓延しました。とても不幸な状況ですが、こうした中で私は私の友人たちと、とても貴重で忘れられない幸せな経験をしました。

それは3月のある日、1本のLINE電話から始まりました。電話の主は、日本に観光旅行に来ていたカナダ国籍の友人です。彼女は家族全員が帰国できなくなったので助けてほしいと言うのです。ここから、私と日本人である私の夫、そしてカナダ国籍の家族5人との幸せで楽しいホストファミリー生活が始まりました。

この幸せな生活の中心は友人の6歳、10歳、12歳の子供たち3人でした。外から帰ってきた人がいれば、子供たちが消毒スプレーで上着を消毒するゲームをしました。また私の夫が帰宅すると、覚えた日本語で「おかえりなさい」と声をかけてくれるので、夫はすぐに疲れがとれると言って喜んでいました。

夕食後はお互いの生活や働き方の違いについて、英語・フランス語・台湾語・日本語で話はずみませんでした。時には子供たちが歌を歌ったり踊ったりして、とてもにぎやかな時を過ごすことができました。

子供たちはネットで母国カナダの授業に参加し、日本で今の生活の様子を報告したり、カナダの深刻な状況を聴いたりして驚いていました。子供たちの先生や友達も、日本の比較的緩やかな生活状況を聞いて、とても羨ましがっていたそうです。

夫が在宅勤務となり、毎朝ビデオ会議で同僚たちと挨拶している横で、子供たちが「おはようございます」、「你好」、「good morning」などと挨拶していたのが印象的でした。

週末は全員で歩いて買い物に行きました。子供たちは、長い距離を歩けることを大変喜び、線路脇の道で間近に電車が通るのに驚いていました。そして、電車が通るたびに運転手や乗客らに手を振っていました。運転者から汽笛を鳴らしてもらったので、線路脇を通るのがとても楽しらしく、はしゃいでいました。私たちもその光景で癒されていました。また、桜の満開の時には、子供たちを家の近くにある桜並木につれていきました。いつもなら人でいっぱいのところですが、私と子供たちだけで満開の桜を楽しみ、マスクを通して花の香りが深く印象に残りました。またカナダの子供たちにとって、とても貴重な経験になったのは、子供たちだけで買い物に行ったことです。カナダでは、中学生でも親が同伴でないといけない法律があります。このコロナウイルスという不自由な生活の中で、日本にいる子供たちはカナダの友達にはできない良い経験ができたようで、とてもよかったです。

その後5月に入り、友人とその家族は帰りの航空券を手に入れることができたので帰国しました。コロナウイルスによって、世界がどのような対応をしてよいかわからない中で、このような幸せな生活を送れたことは、私だけでなく、私の夫、そして友人家族にとってとても貴重な経験になったと思っています。

人々がお互いに助け合って生活し、その中でたくさんの幸せをお互いに受ける事が出来たと感じました。



Taiwan

「大切な人へ」

ヴォ ティ トウイ ヴァンさん (ベトナム)



2018年6月、私はベトナムから日本のさいたま市に来ました。もう2年半がたちました。さいたま市はびっくりするほど住みやすく、あっという間に時間が流れてしまったような気がします。私は埼玉の食品会社で働いています。そこで働く人の半分はベトナム実習生です。私は、ベトナム人と日本人の通訳の仕事をしています。とても忙しくて大変です。ベトナム人の悩み事を聞くこともあります。風邪をひくことと、コロナウイルスを心配しています。

今、日本ではコロナウイルスの感染がどんどん広がっています。私は休みの土日はどこかに遊びに出かけることもなく、コロナから身をまもるために、ほとんどアパートの部屋で寂しく一人でStay Home生活をしています。

ベトナムの家族や友達と離れて寂しさもあります。日本の生活をやめてベトナムに帰ろうかと考え込んだこともあります。でも、今は友達ができたり、仕事にも慣れてきたりして、毎日楽しく日本で生活を過ごしています。

Stay Home生活の中で、一番楽しく幸せなひと時は、ベトナムのお父さんとオンラインで顔を見ながら話をする事です。私はお父さんにいっぱい心配をかけています。お父さんはいつも「ヴァン、コロナは大丈夫か?」「おとうさん、心配しないで」「ヴァン、体の調子はどうだ?」「マスクとアルコール消毒しています。元気だよ!」「ヴァン、仕事どうだ?」「仕事は頑張っています。」たまにお父さんが、「ヴァン、ボーイフレンドはできたか?」と恥ずかしそうに質問することもあります。私は「ボーイフレンドまだいないよ。」と答えます。私をいつも気にしてくれていることがとても嬉しいです。お父さんは、私の人生で努力するための原動力です。実は大好きだったお母さんは6年前に病気で亡くなりました。前の日の夜まで元気で生活していたのに、次の日の朝には亡くなっていました。あまりにも突然でびっくりして悲しみにくれました。だから、今はベトナムにはお父さんしかいません。お父さんの顔を見ると私は幸せになります。皆さんも家族や友達や恋人をはじめ大事な人のためにStay Homeでいろいろなルールを守って一所懸命頑張っていきましょう。

今、コロナウイルスでとても大変な時ですが、このような時こそ大事な人のために元気で楽しい幸せな生活を送っていきましょう。できたら、早く彼氏を見つけたいです。もっと幸せになりたいです。皆さん、私と一緒に幸せになってください。お父さんに「ヴァンはボーイフレンドできたよ!」と早く伝えたいです。以上です。ご静聴ありがとうございました。



Viet Nam

当日パフォーマンスタイムで 演奏予定だったMiyackさんの紹介



Miyack (ミヤック)

(プロフィール)

さいたま市在住、国立音楽大学ピアノ専攻卒業。
二期会オペラコレベティ塾修了。
フランス公演中に地下鉄でアコーディオンと出会う。
ヴァイオリンとのユニット「Deux Marches (ドゥマルシェ)」では長崎平和特派員、フルートとの「夢夢マルシェ」、
2本のギターとの「Gypsy Swing Trio」など活動中。
オーケストラと「ヴォツェック」や「ジャズ組曲」に共演。
La Alegriaなどオリジナル曲も多数。
CD「My Place〜場所〜」2020年11月発売。
<http://www.miyack2.com>



司会者をしていただく予定だった方の紹介

総合司会

杉田有紀子さん



「国際友好フェア2019」ステージ司会・
「第18回外国人による日本語スピーチ大会」の総合司会を務める。

パウティヤル スシルさん



ネパール出身。さいたま市在住。「第18
回外国人による日本語スピーチ大会」実
行委員長賞受賞。

タパリヤ ススマさん



ネパール出身。さいたま市在住。「第18
回外国人による日本語スピーチ大会」
ネーミング賞受賞。

... Special Thanks ...

大会の運営をお手伝いいただける予定だった、以下のボランティアの皆様に対して、心より感謝申し上げます(順不同、敬称略)。

藤田 安子、澤 政良、芥川 宇治彦、高比良 邦宏、鈴木 春美、鈴木 恵、岡野 朱美、戸沢 利江、戸井田 恵美、伊東 博、千田 美穂子、
早川 忠昭、番場 隆、大熊 礼子、横田 爽花、陳 雲、飯島 一成、星野 裕昭、小澤 勇、岡戸 隆郁、三澤 優子、藤田 宏子、庵地 紀子、
宮本 正勝、村松 茂、笹内 愛美、杉田 有紀子、パウティヤル スシル、タパリヤ ススマ



公益社団法人 さいたま観光国際協会 国際交流センター

Saitama Tourism and International Relations Bureau (STIB)
International Exchange Center (IEC)

〒330-0055 さいたま市浦和区東高砂町11-1 コムナーレ9F (JR浦和駅東口 浦和パルコ上)

TEL 048-813-8500 FAX 048-887-1505

E-mail iec@stib.jp URL <https://www.stib.jp/kokusai>

